

文部科学省

平成30年度 薬学教育指導者のためのワークショップ 事前アンケート 集計結果

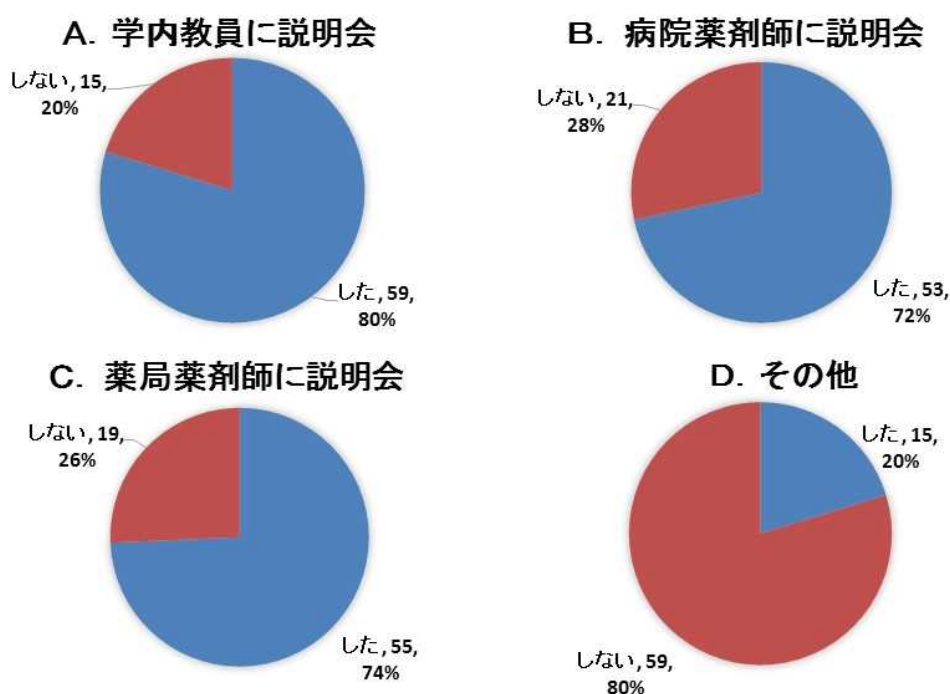
【回答数】74 学部（山口東京理科大学は5年生不在のため集計外とした）

【グラフについて】データラベルは「選択肢, 回答数, パーセンテージ」又は「選択肢, 回答数」で表示

1) 先行導入の目的や実施方法について周知活動

改訂コアカリに準拠した実務実習の先行導入の目的や実施方法について周知活動を行いましたか。

- 学内教員に説明会（具体的な内容を自由記述欄に記載）
- 病院の指導薬剤師に説明会（具体的な内容を自由記述欄に記載）
- 薬局の指導薬剤師に説明会（具体的な内容を自由記述欄に記載）
- その他（具体的な内容を自由記述欄に記載）

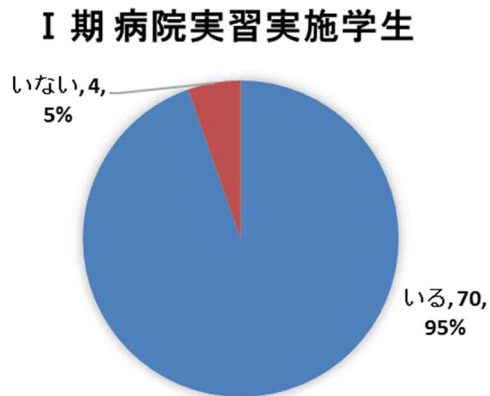


- 学内教員へはFDとして説明会を行っている大学が多かった。一部、FDとは別に説明会を開いている大学もあった。一方、メール配信のみの大学や、全教員ではなく、学部長や実務実習関係教員で情報を共有するに止まっている大学もあった。
- 病院・薬局薬剤師へは、県単位で行っている連絡会や調整機構主催の説明会を利用している大学が多かった。また、他大学と合同説明会を開催、施設訪問時に説明するといった大学も一定数あった。一部、大学で説明会を開催しているところもあった。一方、実習施設に対する説明会を行っていない大学や、書面による依頼と説明のみの大学もあった。
- 複数回説明会を開催、欠席者には動画配信をする等、積極的に周知活動を行う大学がある一方、ほとんど周知活動を行っていない大学もあり、大学差があることが明らかとなった。

1-1) 病院実務実習

① I 期に病院実務実習を行った学生はいますか

- a. いる (具体的な人数・割合を自由記述欄に記載)
- b. いない

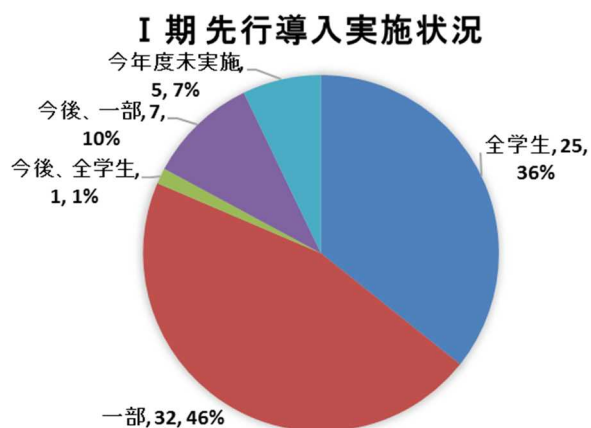


- 全学生のうち 30~40%の学生が I 期に病院実習を行った大学が多かった。
- 「いる」と答えた大学からは、「次年度から薬局→病院という順番で実施する」「先行導入を視野に入れているが、3 期制のため、全員を薬局→病院にすることは出来なかった」といった意見があった。
- 「いない」と答えた大学からは「6 年制スタート時から薬局→病院の順で実務実習を行っている」という意見があった。

②①で a と回答された方にお聞きします。改訂コアカリに準拠した病院実務実習の先行導入を行いましたか。(あてはまるもの一つ)

- a. 全学生
- b. 一部の学生 (具体的な人数・割合を自由記述欄に記載)
- c. 今後、全学生 (具体的な時期を自由記述欄に記載)
- d. 今後、一部の学生 (具体的な時期および人数・割合を自由記述欄に記載)
- e. 今年度、先行導入は行わない

※①で a と回答したのは 70 校。複数回答 (b,c 2 校、b, d 1 校) の 3 校は b を有効、c, d を無効とした。



- 「全学生」と回答した大学の多くは、概略評価の導入を行っているコメントしていた。概略評価に加え、8疾患を重点的に導入、ふりかえり評価 (ふりかえりレポート) を導入した大学もあった。
- 「一部の学生」と回答した大学からの記述からは、I 期に病院実習を行った学生のうち、8割以上の学生が先行導入を実施している大学 (32/37 名、43/52 名) がある一方、1名あるいは2名のみのものであり、“一部”にはかなり差があることが分かった。また、「実習施設側の了承が得られず、一部の学生では先行導入が出来なかった」という意見がある一方、「施設側からの希望に応える形で一部の学生で先行導入を実施した」という意見もあった。
- 「今後、全学生」あるいは「今後、一部の学生」と回答した大学では、「II 期から実施」という回答が多かった。
- 「今年度、先行導入を行わない」理由として、「大学からは先行導入をお願いしていない」「地区調整機構での討議結果により実施していない」「先行導入するかは施設に任せている」という回答が得られた。
- 先行導入実施への取り組み方については、大学間のみならず、地区調整機構間、施設間で差があることが明らかとなった。

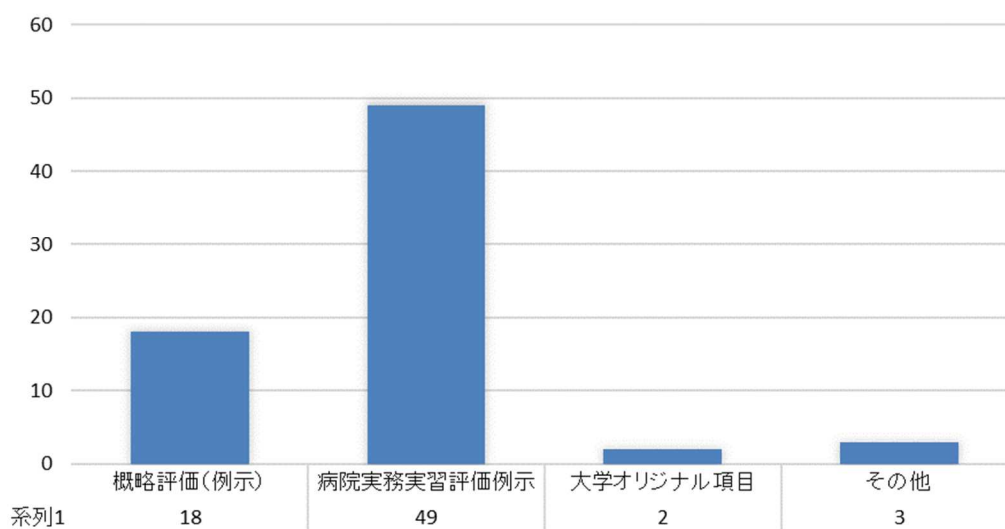
③ ②で a, b と回答された方にお聞きします。

病院実務実習において使用したルーブリック評価表は、どのようなものですか。(複数回答可)

- a. 連絡会議の「薬学実務実習における概略評価(例示)」
- b. 連絡会議の「日病薬評価基準を参照した病院実務実習評価例示」
- c. 大学オリジナル項目
- d. その他(具体的な内容を自由記述欄に記載)

※②で a, b を選択したのは 57 校。②で a, b 以外を選択した(I 期に先行導入を行っていない)大学の回答は集計外とした。

使用したルーブリック評価表



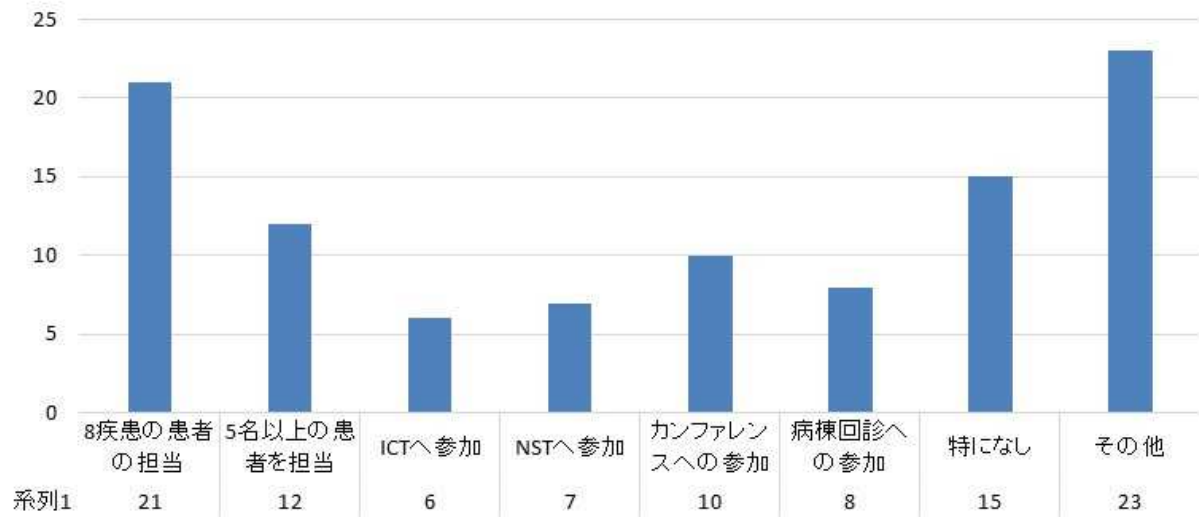
- 地区調整機構で作成したものを使用、地区調整機構の基準に従った、といった意見が多かった。県内の大学で統一書式のものを使用したという意見もあった。
- a を選択した大学のうち約半数は b との複数回答であった。c を選択した大学は複数回答ではなかった。
- 「その他」は「学内での概略評価(到達度評価)も、指導薬剤師に提示」「a を基に、病院実習に関わる SBOs のみとし、大学教員訪問時の評価が書き込めるものに改訂」等であった。

④②で a, b と回答された方にお聞きします。ルーブリックを用いたパフォーマンス評価および実務実習記録による評価を導入したことにより、下記に示す実習内容のうち増えた事例についてご回答ください。（複数回答可）

- a. 代表的な疾患（8 疾患）の患者の担当
- b. 実習中に 5 名以上の患者を担当
- c. 院内感染対策(ICT)への参加
- d. 栄養サポートチーム(NST)への参加
- e. カンファレンスへの参加
- f. 病棟回診への参加
- g. 特になし
- h. その他

※②で a, b を選択したのは 57 校。①で b を選択した（I 期病院実習 未実施）大学および、②で a, b 以外を選択した（I 期先行導入 未実施）大学の回答は集計外とした。また、本設問で a~f, h を選択すると同時に g も選択している場合は、a~f, h を有効とし、g を無効とした。

実習内容のうち増えた事例



- 8疾患を意識した実習を行ってもらえた結果、8疾患の患者の担当が増えた、という意見が多かった。また、病棟実習の時間が増えたと回答した大学も複数あった。
- ICT、NST、カンファレンス、病棟回診への参加が増えたと回答した大学もあるが、「これらの項目は以前（昨年あるいは数年前）から実施しているため“増えた”とは回答していない」という大学も複数あり、「チーム医療への参画」は多くの実習施設で行っていると考えられた。
- 「特になし」「その他」を選択した理由は、「以前のデータがないので比較できない」「まだ集計していない」「以前から、選択肢の多くの項目について実施しているため、“増えた”とは判断していない」といったものがあった。「ルーブリック評価のみなので回答できない」「実習内容は変化していない」という意見もあった。

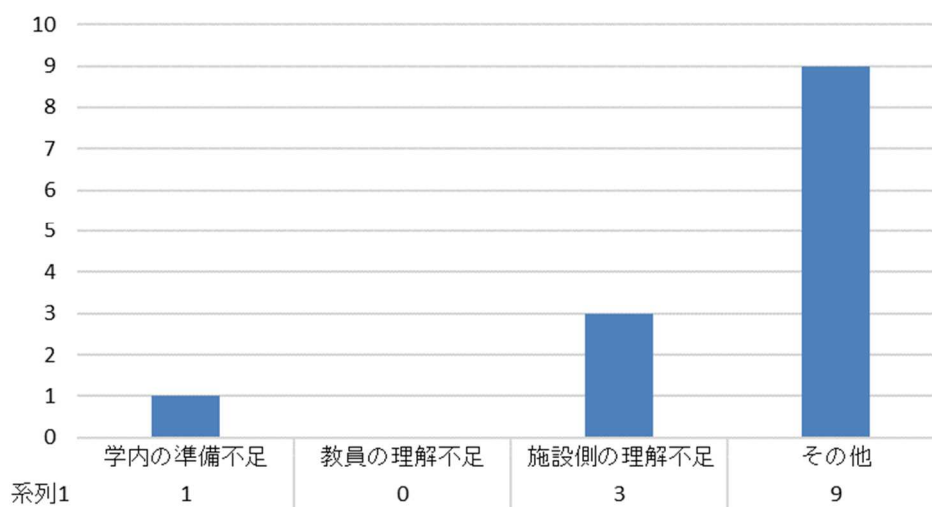
⑤ ②で c, d, e と回答された方にお聞きします。

どのような課題があり、I期の先行導入を見送りましたか。(複数回答可)

- a. 学内の準備不足 (具体的な内容を自由記述欄に記載)
- b. 教員の理解不足 (具体的な内容を自由記述欄に記載)
- c. 実務実習施設側 (病院・指導薬剤師) の理解不足 (具体的な内容を自由記述欄に記載)
- d. その他 (具体的な内容を自由記述欄に記載)

※②で c, d, e と回答したのは 13 校。②で b を選択した大学の回答は集計外とした。

先行導入を見送った理由



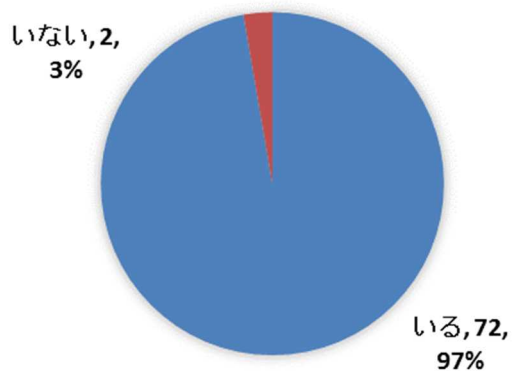
- 「その他」の理由には「地区調整機構における討議により決定」「病院薬剤師会が先行導入を行わないと決定した」「受入施設との話し合いの結果」等があった。

1-2) 薬局実務実習

① I 期に薬局実務実習を行った学生はいますか

- a. いる (具体的な人数・割合を自由記述欄に記載)
- b. いない

I 期 薬局実習実施学生



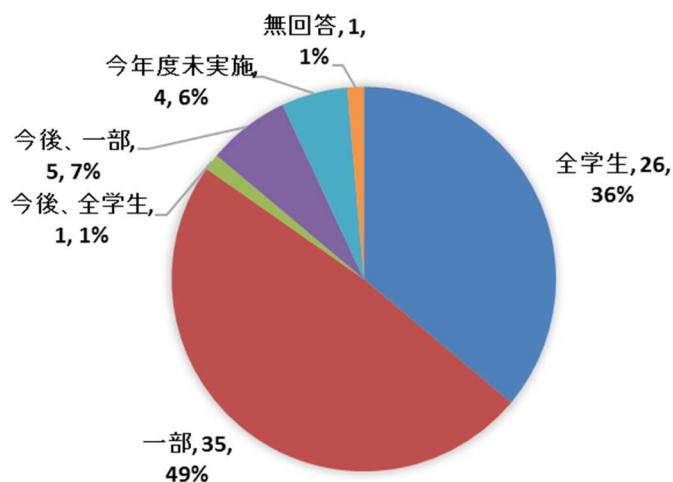
- 全学生のうち約半数の学生が薬局実習を行った大学が多かった。
- 「いない」と回答した大学からのコメントは無かった。

②①で a と回答された方にお聞きします。改訂コアカリに準拠した薬局実務実習の先行導入を行いましたか。(あてはまるもの一つに○)

- a. 全学生
- b. 一部の学生 (具体的な人数・割合を自由記述欄に記載)
- c. 今後、全学生 (具体的な人数・割合を自由記述欄に記載)
- d. 今後、一部の学生 (具体的な人数・割合を自由記述欄に記載)
- e. 今年度、先行導入は行わない

※①で a と回答したのは 72 校。複数回答 (b,c) の 2 校は、I 期の状況 b を有効、c を無効とした。

I 期 先行導入実施状況



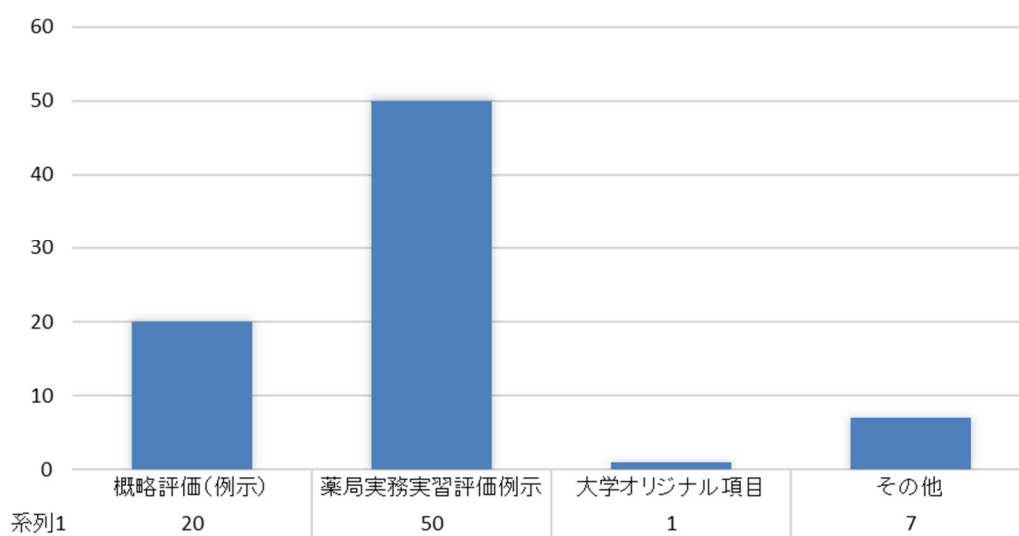
- 「全学生」と回答した大学では、概略評価の導入を実施している所が多かった。概略評価に加え、振り返りレポートを導入した大学もあった。一方、「ルーブリック評価に消極的な薬局がある。先行導入に関して大学間で足並みが揃っていないことが影響しているよう」といった意見もあった。
- 「一部の学生」と回答した大学では、I 期に薬局実習を行った学生のうち、90%以上の学生が先行導入を実施できた大学がある一方、数%の学生のみ大学の大学もあった。また、「地区調整機構の依頼する先行導入は、全施設が評価を経験するのが目的であり、全学生を対象としていない」「地区の各県薬剤会では、先行導入の実施を会員薬局に呼びかけていたため、一部の学生では先行導入が行われたと推測しますが、どのくらいの薬局で実施されたのかは不明」「施設の指導薬剤師の判断に委ねた」といった回答が得られた。
- 「今後、全学生」または「今後、一部の学生」と回答した大学は、II 期から実施予定が多数。
- 「今年度、先行導入は行わない」理由として、「各薬局とも III 期までには先行導入の予定だが、I 期は旧コアカリでの実施を希望した (I 期に全学生が薬局実習済)」「地区調整機構の討議結果」「大学から先行導入をお願いすることはしていない。薬局側が先行導入を希望する場合、従来の評価方法と並行して新しい評価方法を導入するようお願いした」との回答が得られた。
- 先行導入実施への取り組み方について、大学間のみならず地区調整機構間、薬局間で差があることが明らかとなった。

③ ②で a, b と回答された方にお聞きします。薬局実務実習において使用したルーブリック評価表は、どのようなものですか。(複数回答可)

- a. 連絡会議の「薬学実務実習における概略評価(例示)」
- b. 連絡会議の「日薬手引きを参照した薬局実務実習評価例示」
- c. 大学オリジナル項目
- d. その他(具体的な内容を自由記述欄に記載)

※②で a, b と回答したのは 61 校。

使用したルーブリック評価表



- 地区調整機構で作成したものを使用、地区調整機構の基準に従った、といった意見が多かった。県内の大学で統一書式のものを使用したという意見もあった。
- a を選択した大学のうち約半数は b との複数回答であった。c を選択した大学は b との複数回答であった。
- 「その他」は「学内での概略評価(到達度評価)も、指導薬剤師に提示」「a を基に、薬局実習に関わる SBOs のみとし、大学教員訪問時の評価が書き込めるものに改訂」「日薬版を使用していると思う」「県薬剤師会実習委員会で作成したルーブリック評価表」「日薬のルーブリックに関しては、第 I 期開始後に全国説明がなされたため、第 I 期では特定のルーブリック評価に固定せずに、対応した」等であった。

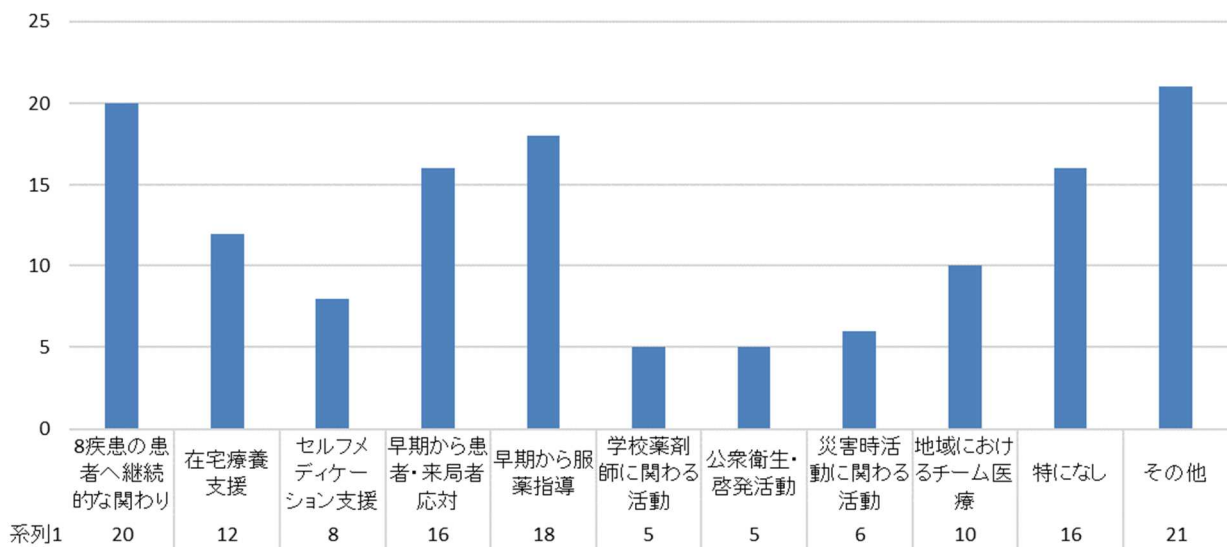
④ ②で a, b と回答された方にお聞きします。

ループリックを用いたパフォーマンス評価および実務実習記録による評価を導入したことにより、下記に示す実習内容のうち増えた実習事例についてご回答ください。（複数回答可、該当するものに○）

- a. 代表的な疾患（8 疾患）の患者への継続的な関わり
- b. 在宅療養支援
- c. セルフメディケーションの支援
- d. 早期（1～3 週目）から患者・来局者対応
- e. 早期（1～3 週目）から服薬指導の実施
- f. 地域保健（学校薬剤師）に関わる活動
- g. 地域保健（公衆衛生・啓発活動）に関わる活動
- h. 地域保健（災害時活動）に関わる活動
- i. 地域保健（地域におけるチーム医療）に関わる活動
- j. 特になし
- k. その他

※②で a, b と回答したのは 61 校。②で c～e を選択した（I 期先行導入未実施）大学の回答は集計外。

実習内容のうち増えた事例



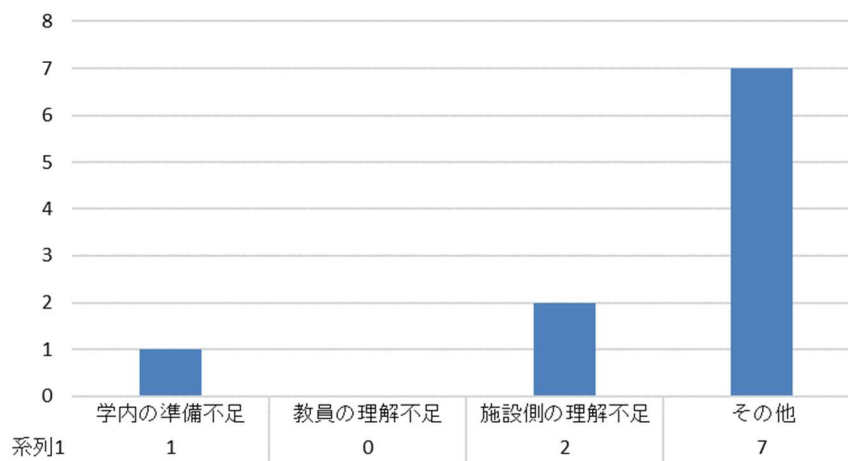
- 8 疾患や早期からの患者対応・服薬指導を意識した実習が行われたことが明らかになった。また、服薬指導件数が増加したとの意見もあった。
- 「特になし」「その他」を選択した理由は、「以前のデータがないので比較できない」「まだ集計していない」「以前から、選択肢の多くの項目について実施しているため、“増えた”とは判断していない」といったものが多かった。

⑤ ②で c, d, e と回答された方にお聞きします。どのような課題があり、I 期の先行導入を見送りましたか。(複数回答可、該当するものに○)

- a. 学内の準備不足 (具体的な内容を自由記述欄に記載)
- b. 教員の理解不足 (具体的な内容を自由記述欄に記載)
- c. 実務実習施設側 (薬局・指導薬剤師) の理解不足 (具体的な内容を自由記述欄に記載)
- d. その他 (具体的な内容を自由記述欄に記載)

※②で c, d, e と回答したのは 10 校。②で b を選択した大学(4 校)の回答は集計外。

先行導入を見送った理由



- 「その他」の理由には「地区調整機構における討議により決定」「薬剤師会との相談結果」「受入施設との話し合いの結果」等があった。

2) 改訂コアカリに準拠した実務実習の実施に向けて

①改訂コアカリに準拠した、より充実した実務実習を行うために、どのような取り組みをしていますか。

【抜粋】

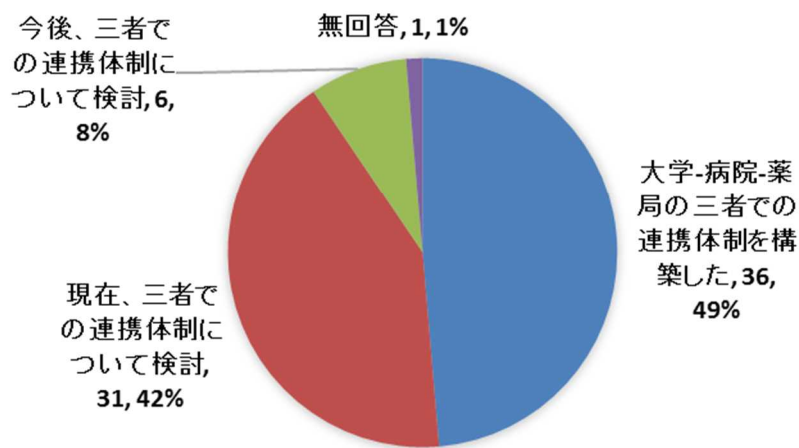
- 調整機構内の大学の連携のもと、臨床準備教育についての統一ループリックを作成し、改訂コアカリによる臨床準備教育の充実に取り組んでいる。
- F薬学臨床における1年次の早期体験実習から外部医療施設と連携。
- 実務事前実習におけるループリック評価を行い、事前教育と施設での教育の連続性を検討。
- 薬剤師会と月に1回会議を行い、実習スケジュール等について検討している。
- 薬局一病院の施設連携(グループ化)を行い、実習における薬局一病院の施設連携の強化を行い、実習の充実を図っている。
- 地域連携医療施設のグループ協議会の開催及び参加(実習内容の打ち合わせ等)。
- 県薬剤師会の実務実習担当者と緊密な連携体制および先行導入の実施等。
- 病院実習は全て個別契約病院であるため連絡会議等での周知を図る。
- 県病院薬剤師会と県薬剤師会が合同で作成した「連携ノートブック」を導入する。
- 病院実習の内容を紹介するビデオを作成し、薬局の指導薬剤師に視聴してもらった上で、薬局実習に求められる内容を議論する協議会を開催し、標準化に向けた意見交換を重ねてきた。
- 病院実習：共用試験に合格した4年次生は、5週間、基本的な病院薬剤師業務を総合的に理解するため、薬剤管理指導を体験し、病院クリニカルクラークシップを実践するための基盤を学修。5年次は、12週間、実践型の病院クリニカルクラークシップとして患者(外科・内科病棟)を担当し、医療チームと協力して、学生カンファレンス(多職種医療スタッフとのカンファレンス)等により主体的に臨床課題の解決能力と実践力修得を目指している。6年次は、学部連携病棟実習を実施している。薬局実習：病院実習との連携を深めるため、担当患者への薬局クリニカルクラークシップの実践を行っている(任意)。
- 施設との連携強化(実習内容等について、病院、薬局、大学の三者による協議の場を設ける等)。
- 低学年から医療人教育(A・B領域)をアクティブラーニングで実施し、継続性を考慮したポートフォリオを用い、ループリックで評価。PBLやSGDを用いた事前学習を増やし、問題解決能力の醸成に努めている。
- 実務事前学習において、これまで学習してきた薬理学、病態学、治療学を基盤として症例解析に力を入れる。また、シミュレーターを導入し、薬の作用と副作用を適切に確認するための患者観察のスキル研修を取り入れる。さらに、医療系の他学科、他大学とのIPEをスタートさせた。
- 学部教育(実務実習事前学習・薬物治療学など)においても、より実践的な教育内容を取り込み、新しい評価に向けたループリック評価を導入するなどの改善に努めている。
- 実務実習事前実習において、現場薬剤師の指導を受ける時間を大幅に増やした。また、模擬症例に基づく演習・実習も増やした。

②「薬学実務実習に関するガイドライン」では「改訂モデルコアカリキュラムの趣旨を踏まえ、大学 - 病院実習 - 薬局実習の学習の連携を図り、一貫性を確保することで学習効果の高い実習を行う」とされています。貴学における実習施設との連携状況をご回答ください。

- a. 大学 - 病院 - 薬局の三者での連携体制を構築した。
- b. 現在、三者での連携体制について検討している。
- c. 今後、三者での連携体制について検討する。

※b, c 複数を回答している大学は、b として集計した。

実習施設との連携状況



- 連携体制を構築した大学においては、三者が集まる協議会を設置しているところが多かった。また、「実習生の週報に 8 疾患の実施状況等の記載を盛り込み、実習内容を薬局・病院間ならびに大学で閲覧することで共有できるようにした」「代表的な 8 疾患への取り組み状況、4 年次の 5 週間の病院実習での評価を実務実習実施計画書に反映させ、大学 - 病院 - 薬局の三者間で共有している。病院・薬局実習での“目標書き出し、振り返り、成長報告、SEA（有意事象分析）”も三者間で共有」との意見もあった。
- 連携体制について検討中の大学においては、Web システムを活用する予定であるとの回答が複数あった。また、「三者連携のための実習計画書のフォーマットを作成している」「地区調整機構を中心として、連携体制を構築するように検討している」との意見もあった。
- 今後、連携体制を検討する大学からは「地区調整機構の改訂コアカリ WG を中心に病院実習委員会、薬局実習委員会で検討中」「マッチングが一段落してから検討」といった回答があった。

3) 「薬剤師として求められる資質」の醸成について

①「チーム医療への参画」を達成するために、貴学が行っている取組があれば以下に記述してください。
(学内教育における取組や、実務実習施設との連携での取組等)

【抜粋】

- 多職種連携教育を行っている。(複数年次で実施している大学が多数)
- 多職種連携医療実習を行っている。(同様意見 複数)
- 現場の薬剤師を講師として招いている。(同様意見 多数)
- 県の病院薬剤師会、薬剤師会と連携をとっている。
- フィジカルアセスメント教育を低学年から実施している。処方解析学、チーム医療実践演習を新たに導入し、処方提案をする薬剤師を目指す。
- チーム医療として必須能力であるコミュニケーション能力や相互に尊重する態度を養成することを目的とした問題解決型のグループ学習を実施。

②「薬物療法における実践的能力」を醸成するために、貴学が行っている取組があれば以下に記述してください。(学内教育における取組や、実務実習施設との連携での取組等)

【抜粋】

- 代表的な各種疾患に関する薬学的管理に関するPBL演習を行っている。(同様意見 多数)
- 医師・臨床薬剤師による講義や演習時の指導を行っている。(同様意見 多数)
- 臨床前実習では処方解析などを通して、疾患と薬物治療について考察させている。6年生では、臨床薬物動態学や医療統計学を開講。6年間を通じ、薬物療法の実践能力が熟成されるようにしている。
- 病院実務実習では、患者担当制を導入し、担当患者へのクリニカルクラークシップの実践を行っている。また、学生カンファレンスを行うことや、薬局実務実習において服薬指導準備シートを作成することにより、主体的に実践力を修得することを目指している。

③「地域の保健・医療における実践的能力」を醸成するために、貴学が行っている取組があれば以下に記述してください。(学内教育における取組や、実務実習施設との連携での取組等)

【抜粋】

- 薬剤師会等が行う事業(薬物乱用防止、災害時活動など)に参加。(同様意見 多数)
- 薬局において、地域医療・在宅医療について体験型学習を行っている。(同様意見 複数)
- 外部講師(病院・薬局薬剤師等)による地域保健・医療等に関する講義、PBLやSGDなどの事前学習(プライマリ・ケア、セルフケアとセルフメディケーション、検体測定室、アンチ・ドーピング、感染対策、自殺予防、薬物乱用防止、地域包括ケアシステム、医療連携など)。(同様意見多数)
- 在宅チーム医療教育推進プロジェクト(文部科学省支援事業)として、「在宅医療入門」、「初年次体験実習」(1年次)、「在宅医療を支えるNBM」(2年次)、「チーム医療による薬物治療と在宅ケア」(3年次)、「チーム医療実践の基盤チュートリアル」(4年次)を実施し、地域の保健・医療における実践的能力の基盤の修得を目指している。
- 薬局実務実習において担当患者への薬局クリニカルクラークシップの実践を進めている。

平成 30 年度 文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップ 日 程 表

- 9:30～ 9:35 2P 開会挨拶： 文部科学省高等教育局医学教育課長 西田 憲史
- 9:35～ 9:45 2P 『『薬剤師として求められる基本的な資質』の教育の評価と方略
～改訂コアカリに準拠した教育が4年次を迎えて～』
文部科学省高等教育局医学教育課専門官 福島 哉史
- 9:45～10:00 2P 導入発言「学習成果基盤型教育における薬学実務実習の在り方」
明治薬科大学 伊東 明彦

【第一部： 改訂コアカリに準拠した実務実習先行導入～取組と課題～】

- 10:00～10:10 2P オリエンテーション（10分） 愛知学院大学 脇屋 義文
- 10:10～10:15 【移 動】
- 10:15～11:45 S グループ別セッション（90分）
- 11:45～11:50 【移 動】
- 11:50～12:35 P 発表・討論（45分：発表5分、質問2分、移動1分×4班、討論10分）
司会 （Ⅰチーム）神戸大学 矢野 育子
慶應義塾大学 山浦 克典
（Ⅱチーム）北海道大学 菅原 満
京都薬科大学 津島 美幸
- 12:35～13:20 S 昼食（45分）

【第二部： 改訂コアカリに準拠した実務実習の実施に向けて】

- 13:20～13:30 2P オリエンテーション（10分） 長崎大学 中嶋 幹郎
- 13:30～13:35 【移 動】
- 13:35～15:35 S グループ別セッション（120分）
- 15:35～15:45 【休 憩】
- 15:45～16:40 P 発表・討論（55分：発表5分、質問2分、移動1分×4班、討論20分）
司会 （Ⅰチーム）名城大学 大津 史子
帝京大学 小佐野 博史
（Ⅱチーム）静岡県立大学 賀川 義之
日本大学 亀井 美和子
- 16:40～16:45 【移 動】
- 16:45～17:25 2P 発表・総合討論（40分：発表時間10分×2チーム、討論20分）
司会 広島大学 小澤 孝一郎
昭和大学 中村 明弘
- 17:25～17:30 2P 閉会挨拶： 文部科学省高等教育局医学教育課企画官 荒木 裕人
- 17:30 閉会

平成30年度 文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップ
趣旨説明

「薬剤師として求められる基本的な資質」の教育の評価と方略
～改訂コアカリに準拠した教育が4年次を迎えて～

文部科学省高等教育局医学教育課 薬学教育専門官 福島哉史

1

○薬学教育指導者のためのワークショップとは

平成18年度からの薬学教育改革の確実な推進・構築を図るため、

- ・ 薬学部の教育指導者が直面する具体的課題や改善方策について議論・検討する機会を設けることで
- ・ 各大学が主体的かつ組織的に推進する教育内容・方法の改善に資する

ことを目的に開催。

2

○参加者

学部長等、各大学において、薬学教育・教育課程編成に指導的立場、責任ある立場にある者(1大学1名)。

→ 各大学が主体的かつ組織的に教育内容・方法の改善を行っていくためには、「薬科大学及び薬学部の教育指導者が直面する具体的課題や改善方策を、学長・学部長をはじめとした、学部を統括する者が適切に把握し、それを学内全体に行き渡らせる」ことが不可欠。

3

○過去のテーマ(1)

- 【平成18年度】 ①早期体験学習実施への対応について
②モデルコアカリキュラムを踏まえた薬学教育の充実 ③薬学教育への期待
- 【平成19年度】 ①薬学教育充実のための大学の取組と評価について
②卒業前薬学教育の充実(5、6年次の薬学教育(実務実習を除く)の重要性)
- 【平成20年度】 ①実務実習事前学習の充実について
②薬学6年制教育の充実のための実務家教員の役割について
- 【平成21年度】 実務実習において大学が果たすべき役割
- 【平成22年度】 新薬学教育制度での人材育成
～高学年での教育を学士力の向上と学生の進路にどのように生かせるか～
- 【平成23年度】 ここが変わった6年制薬学教育



6年制教育課程の完成

4

○過去のテーマ(2)

【平成24年度】 新薬学教育モデル・コアカリキュラムに求められるもの

【平成25年度】 新薬学教育モデル・コアカリキュラムの各大学での実施に向けて

【平成27年度】 社会の期待に応えうる質の高い薬剤師の養成に向けて

【平成28年度】 「三つのポリシー」の策定・運用と薬学教育の質保証

【平成29年度】 2025年以降を見据えた薬学系人材の育成に向けて

【平成30年度】 「薬剤師として求められる基本的な資質」の教育の評価と方略
～改訂コアカリに準拠した実務実習実施に向けて～

➡ 「コアカリ改訂」と「OBE（学習成果基盤型教育）」

5

○テーマ設定の背景と目的

【平成30年度テーマ】

「薬剤師として求められる基本的な資質」の教育の評価と方略について
～改訂コアカリに準拠した実務実習実施に向けて～

背景(1)

改訂コアカリに準拠した教育を受けた学生が4年次を迎えた。各大学には、改訂コアカリに明記されている『薬剤師として求められる基本的な資質』を持った卒業生を社会に送り出す責務がある。



『薬剤師として求められる基本的な資質』の適切な評価方法を考えるとともに、資質を醸成する教育の方略についても、今一度、考える必要がある。

6

背景(2)

10の『薬剤師として求められる基本的な資質』のうち、多くが実務実習と関連している。

関連項目: ①薬剤師としての心構え、②患者・生活者本位の視点、③コミュニケーション能力、
④チーム医療への参画、⑥薬物療法における実践的能力、
⑦地域の保健・医療における実践的能力

(※)直接関係しているように思われなくても、実務実習を通して、適切な薬物治療を行うためには、「⑤基礎的な科学力」が必要であることや、基礎研究や臨床研究の必要性に気付き(⑧研究能力)、さらには、薬剤師は「⑨自己研鑽」し続ける必要があること、実習生や新人薬剤師を教育する「⑩教育能力」が必要であることに気付き、学生の行動に変化をもたらすであろうことを考えれば、実務実習は全ての資質と関連すると言える。



6年間の教育カリキュラムにおいて、実務実習が占める期間はわずかであるが、果たす役割は極めて大きい。改訂コアカリに準拠した実務実習実施に向け、これまで大学独自で取り組みを行っていたが、今年度は全国的に先行導入が行われている。

7



ワークショップの目的

背景(1)(2)を踏まえ、来年2月から本実施が迫っている改訂コアカリに準拠した実務実習を充実させ、『薬剤師として求められる基本的な資質』を備えた卒業生を社会に送り出すために、

①今年度Ⅰ期の先行導入における取組内容と、そこで明らかとなった課題、②課題解決のために必要な取組について議論する

とともに、その成果を薬学教育関係者が共有し、平成31年度実務実習実施に向けて着実な準備を加速させたい。

8

平成30年度文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップ

学習成果基盤型教育における 薬学実務実習の在り方

伊東明彦（明治薬科大学）

モデル・コアカリキュラムの改訂に伴って

プロセス基盤型教育（積み上げ方式）から

学習成果基盤型教育へ
(outcome-based education : OBE)



学習成果（卒業目標）を設定し、
それを達成できるように目標、方略、評価などを
デザインする教育法

＜薬学部卒業時に必要とされる資質＞

「薬剤師として求められる基本的な資質」

薬剤師として求められる基本的な資質

豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献する。

6年卒業時に必要とされている資質は以下の通りである。

（薬剤師としての心構え）

医療の担い手として、豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識をもち、薬剤師の義務及び法令を遵守するとともに、人の命と健康な生活を守る使命感・責任感及び倫理観を有する。

（患者・生活者本位の視点）

患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。

（コミュニケーション能力）

患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。

（チーム医療への参画）

医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。

（基礎的な科学力）

生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。

（薬物療法における実践的能力）

薬物療法を主体的に計画、実施、評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。

（地域の保健・医療における実践的能力）

地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。

（研究能力）

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。

（自己研鑽）

薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。

（教育能力）

次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。

薬学実務実習の位置づけ

薬剤師業務の早期臨床体験と
大学でのシミュレーション実習を
ベースに医療現場での参加・実践を通して
臨床実践能力を磨く

薬剤師として求められる基本的な資質

豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献する。

6年卒業時に必要とされている資質は以下の通りである。

☆ 実務実習において成果が期待される

☆ (薬剤師としての心構え)

医療の担い手として、豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識をもち、薬剤師の義務及び法令を遵守するとともに、人の命と健康な生活を守る使命感・責任感及び倫理観を有する。

☆ (患者・生活者本位の視点)

患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。

☆ (コミュニケーション能力)

患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。

☆ (チーム医療への参画)

医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。

(基礎的な科学力)

生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。

☆ (薬物療法における実践的能力)

薬物療法を主体的に計画、実施、評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。

☆ (地域の保健・医療における実践的能力)

地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。

(研究能力)

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。

(自己研鑽)

薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。

(教育能力)

次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。

薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂をうけて

新モデル・コアカリキュラムに準拠した 薬学実務実習を実施するために

薬学実務実習に関するガイドライン

(薬学実務実習に関する連絡会議)

大学の臨床準備教育及び実務実習 を適正に実施するための指針

効果的な実習のための枠組み見直し

薬局と病院の目標（SBO）は区別して記載していない。

一貫性のある病院・薬局実習の実施

- ・病院・薬局で共通する学習内容を、情報を共有して効果的に
- ・患者・来局者に早期から対応し、「代表的な疾患」を充分体験できる効果的な実習



一貫性の確保

病院実習と薬局実習を連続して行う

実習期間は**連続性のある22週間**とし、各施設11週間を原則（実習期間の間に2週間～4週間程度の準備とふりかえり期間を設定）

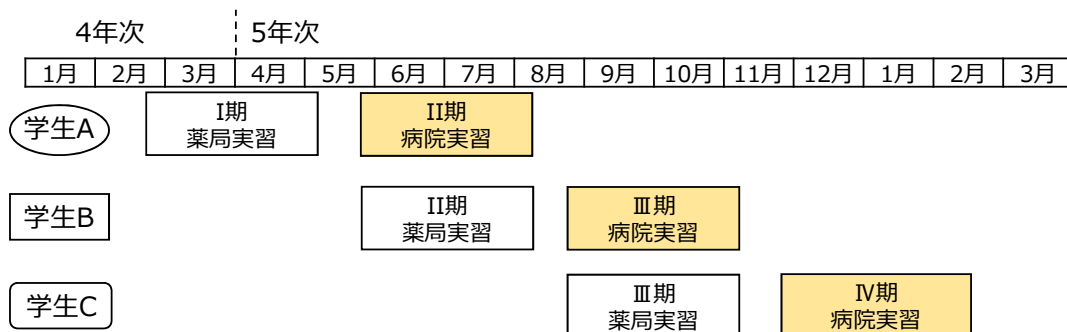


効果的な実習の枠組みとして**4期制**で割り振り

平成31年度からの実務実習

実務実習の枠組み（一貫性のある薬局・病院実習の実施）

効果的な実習の枠組みとして**4期制**で割り振り



実習期間は連続性のある22週間とし薬局実習と病院実習を連続して行う。（各施設11週間を原則、実習期間の間に準備と振返り期間を設定）

学習成果基盤型教育による実務実習

「薬剤師として求められる基本的な資質」の修得

何をやったかではなく

学習者がどこまで到達したか
その具体的なパフォーマンス（知識、技能、態度の一体化した、知識や想いをベースにした実践）
を評価しながら学習を進める。



参加・体験型実習の充実
「実践させる」

F：薬学臨床

評価基準と方法

学生の実践（パフォーマンス）を確認して評価する

- (1) 薬学臨床の基礎
- (2) 処方せんに基づく調剤
- (3) 薬物療法の実践

【患者情報の把握】【医薬品情報の収集と活用】

【処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】

【処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】

概略評価

- (4) チーム医療への参画
- (5) 地域の保健・医療・福祉への参画

【医療機関におけるチーム医療】【地域におけるチーム医療】

【在宅医療・介護への参画】【地域保健への参画】

【プライマリケア、セルフメディケーションの実践】

【災害時医療と薬剤師】

実務実習記録
による評価

指導薬剤師と実習生が、**定期的（2～4週間毎を目安）**
に、評価を行い実習生がどの程度、何が成長したか評価する

(3) 薬物療法の実践

。

観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階				
有効性モニタリングと副作用モニタリング	薬物療法の経過の観察や結果の確認を実践する。	薬物治療に関する経過モニタリングを基に患者の状況を総合的に判断して処方設計や問題解決につなげる。	評価した患者の状態に応じ、処方設計や問題解決につなげる。副作用を確認した場合は、副作用軽減化の対策を検討する。	患者の状態をモニタリングするためのツールとして、臨床検査値の継続的なモニタリングを実施し、患者の状態を評価する。評価結果は、適切にカルテや薬歴などに記録する。	薬物療法の有効性、安全性及び副作用を評価する指標を判断する。				
						合格ラインは決めていない ありのまま			
						6月 8日			○
						6月 22日			○
						月 日			
月 日									

実務実習の最終評価

実務実習の単位認定に関わる
最終評価は大学が行う。

大学として「最終評価基準」を決定

「実習施設での評価」を加味した総合的な基準

大学での課題

- 1) 実習に関する大学の責務について、全教員間で意識を共有
- 2) 入学時からの学生に関する情報の収集、一元的管理及び指導体制の整備 (低学年からの学生指導の徹底、学生を実習施設に送り出す際に学生指導を行うために)
- 3) 適切かつ充実した臨床準備教育の実施
- 4) 新しい実習に準拠した実習施設情報の収集と更新
- 5) 31年度の実習施設のなるべく早期での決定
- 6) 新しい評価形式の決定と具体的対応方法
- 7) 実習施設との連携体制の整備
- 8) 学内の実習実施体制の整備

など

大学での課題

3) 適切かつ充実した臨床準備教育の実施



OBEに基づく薬学実務実習の在り方において

- ・実習では、**実践的な臨床対応能力を身につける参加・体験型学習**を行う。**「実践させる」**
- ・実習施設には**実践できる環境の整備**を求めている。



参加・体験型の実践的な実習を行っていける能力を身に付けられるものでなければ**実践は成り立たない**。

大学は、**基礎的な知識に加えてや薬学臨床に示された大学での事前学習で修得しておくべき事項について十分な臨床準備教育を担保**する必要がある。

事前学習・病院実務実習・薬局実務実習の統合

改訂コアカリ F薬学臨床 SBOs例示

前) は、実務実習に行く前の1～4年次終了までに到達すべきSBOs

【③処方せんに基づく医薬品の調製】

1. 前) 薬袋、薬札 (ラベル) に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能)
2. 前) 主な医薬品の成分 (一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。
3. 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。(技能)
4. 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。
5. 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。
6. 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)
7. 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)
8. 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能)

前) が無いSBOsは、病院もしくは薬局実務実習で到達すべき目標

9. 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能)
10. 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)
11. 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)
12. 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)
13. 一回量 (一包化) 調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)
14. 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能)
15. 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。

概略評価 (一部)

(1) 薬学臨床の基礎 【②臨床における心構え】

観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
生命の尊厳と薬剤師の社会的使命及び社会的責任	生命の尊厳と薬剤師の社会的使命を自覚し、倫理的行動をする。医療関係法規を遵守して、薬剤師としての責任を自覚する。	患者・生活者に寄り添い、患者・生活者の利益と安全性を最優先して行動する。医療の中で薬剤師に求められる責任を自覚し、自らを律して行動する。さらなる患者ケアの向上に向けた自己啓発を行う。	患者・生活者の視点に立つ。日常の学びを振り返り記録し、省察する。	生命の尊厳を意識し、他者の人権を尊重する。薬剤師としての義務及び法令を遵守する。患者・生活者のプライバシーを保護する。	薬剤師としての義務及び個人情報保護に関して留意している。
		4	3	2	1
		薬剤師の目指すべき使命を実現できる段階	薬剤師として医療現場で働くことができる基礎を身に付けた段階	～	大学での学習を確認し、医療現場で指導薬剤師の指導の下、実際に患者・来局者に対応ができる段階
		月 日	月 日	月 日	月 日

大学での準備教育でこのレベルを担保

大学での課題

6) 新しい評価形式の決定と具体的対応方法

- ・薬局実習：薬局実習用概略評価表にて評価
- ・病院実習：病院実習用概略評価表にて評価

実務実習の単位認定に関わる最終評価は大学が行う。



大学として「最終評価基準」を決定

「実習施設での評価」を加味した総合的な基準
学生および実習施設への提示を考慮すると・・・

H30年11月までには決定？

7) 実習施設との連携体制の整備

大学・薬局・病院間の教育連携の充実



大学－薬局－病院 一貫性をもった教育を

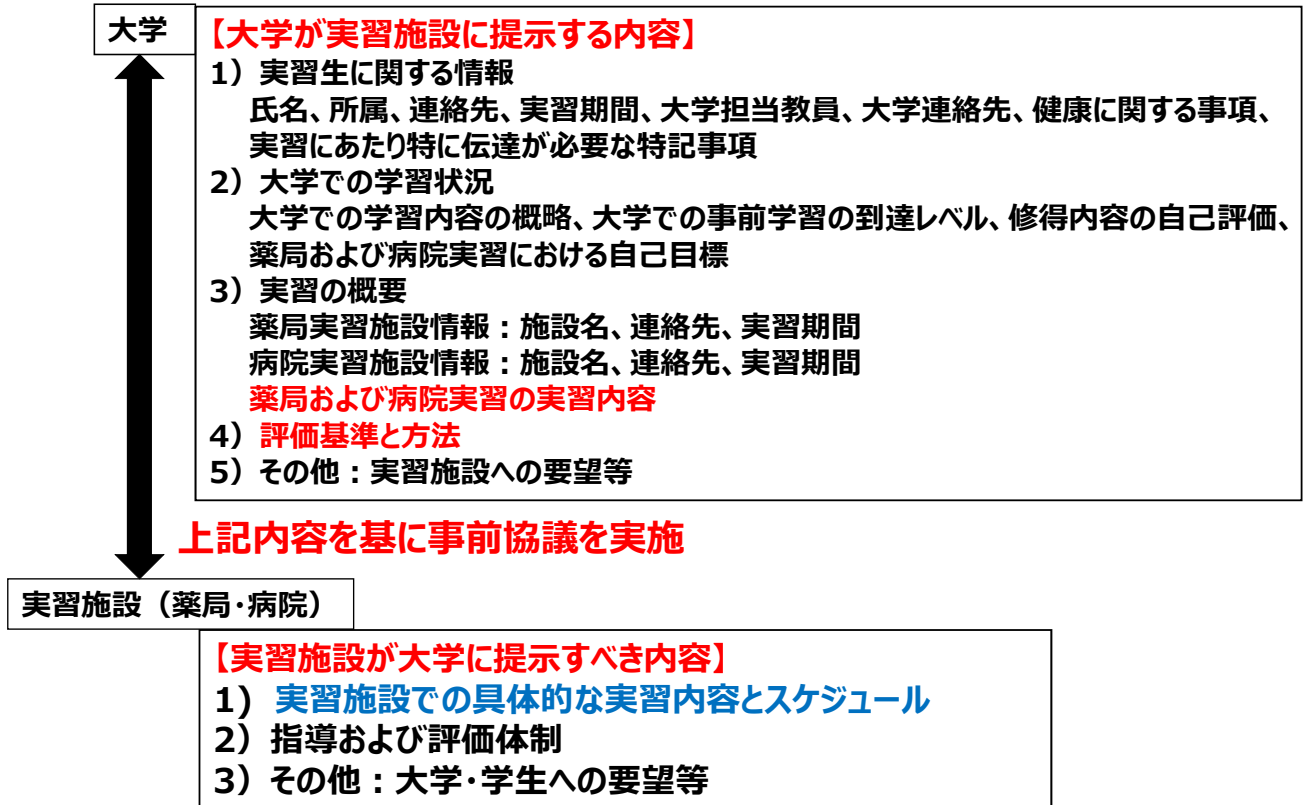
大学・薬局・病院で情報を共有して効果的に実施

大学は、OBEによる実務実習で主導的な役割を担った連携の構築を行っていくべきである。

実務実習実施計画書（実施計画書）の作成

薬局－病院間の連携体制・方法の確立

大学・薬局・病院間の教育連携のための 実務実習実施計画書の内容例と運用



改訂コアカリに基づく実務実習に向けて 今後のスケジュール

		平成30年										平成31年		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
実習施設	薬局・病院		H30-I期 実習			H30-II期 実習			H30-III期 実習			H31-I期 実習		
	薬局実習		トライアル			トライアル			トライアル					
地区調整機構	割振り手続き		31年度エントリーと割振り決定 ①～③										H32年度 受入調査	
	システム関係		施設概要公開										施設概要更新	
大学			31年度エントリー①～③				臨床準備教育				共用試験 (本試・追・再試)		進級 判定	
			実習施設との事前協議 (実習内容等)											
		平成31年										平成32年		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
実習施設	薬局・病院	H31-I期 実習	H31-II期 実習			H31-III期 実習			H31-IV期 実習			H32-I期 実習		
	割振り手続き		32年度エントリーと割振り決定 ①～③										H33年度 受入調査	

8) 学内の実習実施体制の整備

実習が開始されたら・・・

- ・実習の実施計画を確認し、
 - ・進捗状況及び各到達目標の到達度に常に注目し、
 - ・状況を把握し、
 - ・必要に応じて円滑かつ充実した実習ができるように支援する
-

平成 30 年度 薬学教育指導者のためのワークショップ

参加者事後アンケート 集計結果概要

【回答数】 72 学部

(広島大学、広島国際大学、大阪薬科大学は欠席)

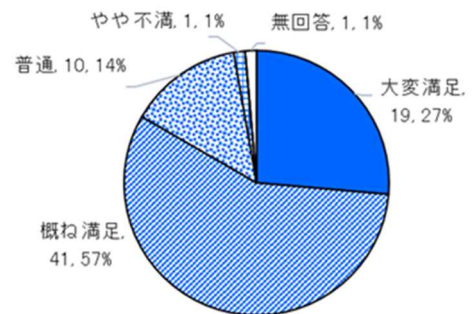
【グラフについて】

円グラフのデータラベルは「選択肢, 回答数, パーセンテージ」で表示した。

Q. 1. グループ別セッションについて

以下の番号のうち1つを選び、御記入ください。

5. 大変満足した
4. 概ね満足した
3. 普通
2. やや不満だった
1. 大いに不満だった

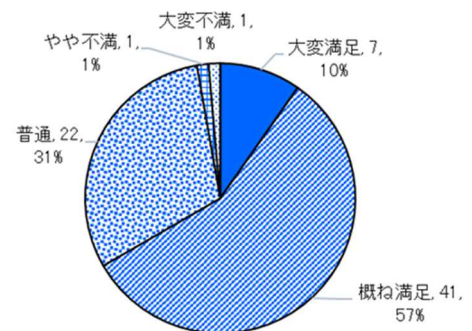


- 「進んだ取り組みをしている大学の意見が参考になった」「自校での取り組み状況の見直しや、改善点などの把握が出来た」といった意見が多くみられた。

Q. 2. チーム別および全体セッションについて

以下の番号のうち1つを選び、御記入ください。

5. 大変満足した
4. 概ね満足した
3. 普通
2. やや不満だった
1. 大いに不満だった

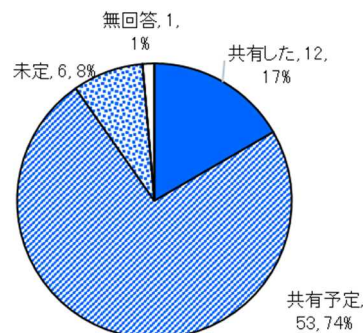


- 「グループ別セッションとは異なる意見を聴くことができ、参考になった」「チーム間における大きな差は認められず、共通の問題点を有していることが分かった」といった意見が多かった。

Q. 3. 本ワークショップで得られた情報の学内共有について

以下の番号のうち1つを選び、御記入ください。

4. 情報共有した
3. 情報共有予定である
2. 未定
1. 情報共有の予定はない



- 「教授会や関連の委員会（実務実習委員会等）で共有する」といった意見が最も多く、「全教員が参加する会議や説明会で報告予定」といった意見も多かった。

Q. 4. （ワークショップ全体を通して考えた）貴大学における今後の課題や問題解決に向けた方向性などがあれば教えてください。

【意見抜粋】

- OBE を目指した実務実習のカリキュラム（目標・評価・方略）に対する理解を深めるために、指導薬剤師向けの説明会、教員向けの FD 研修会を充実させる。
- 実務実習 8 疾患を取扱うための地区別グループ内の病院・薬局の役割分担を協議する場を設け、大学として病院・薬局の連携強化を図るべきと考える。
- 新コアカリキュラム対応の実務実習に向けて、今年度に先行実施した実務実習を検証し、改善点について検討すること、学内における事前実務実習等をより充実させることが必要。
- 学生、教員ともにルーブリックによる評価に慣れることが望ましいと思われる。臨床準備教育の段階からルーブリックを組み込むことにより実務実習の評価方法と連動させる。
- 最終評価基準の決定、準備教育の充実、ルーブリック評価を意識した事前学習の実施。
- ディプロマポリシーの評価と「薬剤師として求められる基本的な資質」の教育の評価を関連付けて整理する。
- 概略評価は慣れるまでは難しいので、教員と指導薬剤師が常に情報交換して、意思疎通を行って評価ができるように、学内外で情報共有し、連携することが必要です。そのためには毎回実習先が変わるような現在の調整機構による実習先の選定などについて見直す必要があると思います。
- 関西で進めているグループ化を実効のあるものにすること。大学で進めている基礎薬学から実務実習までが繋がった教育を軌道に載せること。
- 今後 FD 等を通じて改めて「薬剤師に必要な 10 の資質」に基づいた卒業の判定について、学部全体で議論していこうと考えている。
- 調整機構と協働して課題や問題解決に望む。薬局のレベルアップをどのように実践して行くかが、大きな課題であると思う。
- 薬局 - 病院一貫型実習書（実習計画書）の作成はもとより、特に、現 4 年次における「事前学習」での実務実習評価方法（OBE の徹底）の周知、大学→施設への情報提供のあり方、薬局→病院への申し送り（8 疾患実施状況などを含む）の提供方法等を重要課題として認識した。